実践団体情報

記入日	西暦 2021 年 1 月 14 日（2020 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	北海道標津高等学校
代表者名	森田　泰史
プラン全体のタイトル	標津高校防災協働プロジェクト
電話番号	0153-82-2015
メールアドレス	n-shibetsu-z0@hokkaido-c.ed.jp
実践団体の説明	本校は、北海道標津町内にある全校生徒数 124 名の小規模校で、洪水、高潮、雪害、津波被害の想定される地域に位置している。本校生徒会では、HUG を取り入れた防災の取組を実施、さらに町主催の防災訓練に協力をしてきた。近年は、被災地へのボランティア参加や現地視察研修を実施。また、本校の避難所としての機能を確認するために避難所設営訓練を実施し、防災意識の向上に努めてきた。生徒会交流も実施しており、隣接校や釧路管内の高等学校やとの交流会を重ね、活発な生徒会活動を実践している。
所属メンバー	標津高等学校生徒会総務部生徒、ユネスコ局生徒、ボランティア部生徒、生徒会担当教諭
活動地域	北海道　根室管内　標津町
活動開始時期・結成時期	２０１７年３月～
過去の活動履歴・受賞歴	アクサユネスコ減災防災プログラム採択 （2017～2018 年度） 防災教育チャレンジプラン採択（2019 年度～）

プラン全体の概要	高校生が主体となり、町役場、行政及び地域住民と連携し、「高校生が町を守る」ことを意識させ、主体的に行動できる地域防災リーダー育成に取り組む。２０１９年度に作成に着手した「オリジナル HUG」を地域に普及させるために、地域を巻き込んだ HUG や REAL HUG（避難所開設シミュレーション及び避難所体験）を行い、有事の際のスムーズな避難所開設を目指す。また、高校生が主体となり、防災活動をこども園、小中学生に普及させることにより、町内で一貫した防災教育の浸透を図り、非常時に適切な行動をとり、地元愛を持った児童生徒の育成を図ることを目的とする。これらの活動により、「地域循環型防災教育」を目指し、防災活動の普及を促進させる。

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
４月	・町担当との連絡調整 ・防災研修提案 ・オリジナル HUG 仕上げ		
５月	・学校祭打ち合わせ		
６月	・展示物、防災講話、防災訓練うちあわせ ・町内小中高防災会議設立準備		・オリジナル HUG 製作再開（6/1～）
７月	・研修先との連絡調整 ・語り部との連携	・オリジナル HUG データ推敲（町役場）	
８月	・防災講話内容調整 ・町民との HUG 実施計画打ち合わせ		8/28　オリジナル HUG 完成
９月	・出前授業内容調整	・PTA、しべつ未来塾へ参加依頼	
10 月		・出前授業準備	10/24　オリジナル HUG
11 月			11/25　出前授業（中学校）
12 月			12/25　出前授業（こども園）
１月	・生徒会交流会内容調整		
２月		・生徒会交流会参加校調整	2/13 CP 報告会
３月			・生徒会交流会

プラン全体の反省点・課題・感想	・コロナ禍で計画通りに行うことができなかったが、オリジナル HUG の完成と、これを使った HUG を行うことができよかった。中間発表時に、リモートでの活動について他地域と比較すると取り組みの遅れ・乖離を感じていたが、子ども園での出前授業において一部リモートで行うことが

	できた。直接対面した活動とリモートでの活動とのバランスやインフラにおいて、地域格差を感じた。町内全体にオリジナル HUG をどのように広げるかが今後の課題となる。
今後の活動予定	・オリジナル HUG を補足、改良し、別な災害にも対応できるようにすること。また、これらの活動を絶やさないためにも、町役場やしべつ未来塾などの外部団体と連携し、地域住民や幼小中への出前授業を通年化、「地域循環型防災教育」（出前授業を受けた幼小中学生が標津高校に入り、再び防災活動に携わる）確立を目指す。防災活動に関する取り組みを継続し、標津高校が防災リーダー育成の拠点となるようにする。

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2021 年 1 月 14 日（2020 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	北海道標津高等学校
実践番号（団体内・年度内の通し番号）	①
タイトル	オリジナル HUG 作成
実践担当者のお名前	中村　公一　　鈴木　祐二

実践にかかった金額	10 万円未満
実践の準備にかかった時間	数ヶ月
実践活動を実施した日時	暫定版：２０１９年４月～２０２０年１月 正式版：２０２０年６月～７月
実践の所要時間	作成まで２時間×数か月　　計１００時間以上
実践の運営側で動いた人の人数	１０人
防災教育の対象者の属性	高校生・保護者/PTA・地域住民
防災教育の対象者の人数	約　　未定　　人
実践を行った都道府県と市区町村	北海道　標津町
実践を行った具体的な場所 例：〇〇小学校体育館	北海道標津高等学校
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	excel 、PPT などを自在に操れるスキル

達成目標	避難所運営ゲームとして静岡県で開発され、北海道版にアレンジされた Do-HUG をさらに標津町版に特化し、地域住民の防災意識の向上や地域住民と高校生が協働して避難所を運営するときに必要なことを確認するため。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	（１）事前準備 従来の HUG 活動で使用していた北海道版「Do-HUG」および開発元である静岡県の HUG を取り寄せ、内容を比較検討。 （２）標津町に適した HUG の設定 標津町で起こりうる自然災害やイベント、避難者情報について検討、データベースの作成。 （３）カードデザイン、内容の推敲 カードデザイン、配色の決定後、一度印刷をして内容等に矛盾がないかを確認。 	
得られた成果	標津町で想定される自然災害（晩冬期の融雪・河川の解氷、およびアイスジャムを起因とする河川の洪水）や地域住民（ベトナム人研修生）、情報提供カード（クマの足跡がありました、外気温と室内の温度等）を盛り込むことによって、より実践に近い状況を再現することができた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	2019 年度に完成予定であったが、コロナ禍により臨時休校が続き年度内の完成には至らなかった。しかし、2020 年 6 月の学校再開とともに急ピッチで作業を続け、完成させることができた。避難者の家族構成や避難時の情報、イベントカードをより標津町で起こりうる内容にするために何度も話し合い、推敲を重ねた。また、感染症対策の項目も追加することができた。開発元の静岡県への許諾申請を行う必要があるなど事務的に知らなかったことがあった。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	標津町住民生活課　危機管理室

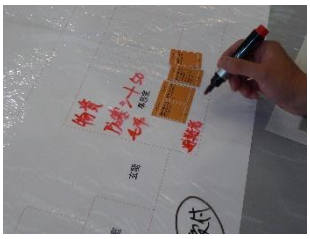
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	

記入日	西暦 2021 年 1 月 14 日（2020 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	北海道標津高等学校
実践番号	②
タイトル	オリジナル HUG（PTA・地域住民）
実践担当者のお名前	中村　公一　　鈴木　祐二

実践にかかった金額	3 万円未満
実践の準備にかかった時間	数ヶ月
実践活動を実施した日時	2020 年 10 月 24 日　13 時 00 分～16 時 30 分
実践の所要時間	3 時間 30 分
実践の運営側で動いた人の人数	１５人
防災教育の対象者の属性	高校生・保護者/PTA・地域住民
防災教育の対象者の人数	約　４０　人
実践を行った都道府県と市区町村	北海道　標津町
実践を行った具体的な場所 例：〇〇小学校体育館	標津町生涯学習センター「あすぱる」
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	標津高校校内配置図（縮尺版・防水加工）

達成目標	標津町版オリジナル HUG を地域住民に体験してもらい、その内容を検証する。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<table>
<tr><td>実践内容・方法</td><td colspan="2">（１）オリジナル HUG の読み合わせ
　オリジナル HUG を用いてカードの読み合わせ、イベントや避難者情報の共有
（２）事前準備
　避難者情報やイベントでの対応状況を直接記入できるようにするためのシートを準備。
 
（３）オリジナル HUG（当日）
　標津高校 PTA、しべつ未来塾、有志生徒を５グループに分け、HUG を行う。
　標津町役場住民生活課　危機管理室長より標津町で起こりうる自然災害についておよび HUG のイベントについての解説を受ける。
 </td></tr>
<tr><td>得られた成果</td><td colspan="2">　オリジナル HUG の実践を通して、標津町で起こりうる災害を基にした避難所運営について広めるきっかけとなった。また、読み手となった生徒にとっては、状況の説明やカードの出すタイミングなど全体を把握しながら行うことが求められたため、コミュニケーション能力向上にも寄与した。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どのくらい身につきましたか？</td><td>知識・技能</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>思考力・判断力・表現力</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>学びに向かう力・人間性</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>課題・苦労・工夫</td><td colspan="2">　初めて標津高校へ避難してきた人にもわかるような案内が必要だと感じた。その後の話し合いで、体育館や格技場を「サケ」・「イクラ」など標津になじみの深い名前で区画整理を行うこととした。</td></tr>
</table>

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	標津町役場　住民生活課　危機管理室
関係者の説明	
関係者の連絡先	

関係者の名前・団体名	北海道標津高等学校　PTA
関係者の説明	
関係者の連絡先	

関係者の名前・団体名	しべつ未来塾
関係者の説明	標津のまちづくりと青年同士のネットワーク
関係者の連絡先	https://ja-jp.facebook.com/sfj.mirai/

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	

記入日	西暦 2021 年 1 月 14 日（2020 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	北海道標津高等学校
実践番号	③
タイトル	出前授業（標津中学校）
実践担当者のお名前	中村　公一　　鈴木　祐二

実践にかかった金額	1 万円未満
実践の準備にかかった時間	１ヶ月
実践活動を実施した日時	2020 年 11 月 25 日　13 時 30 分～15 時 30 分
実践の所要時間	２時間
実践の運営側で動いた人の人数	１２人
防災教育の対象者の属性	中学生・教職員/保育士等・地域住民
防災教育の対象者の人数	約　３０　人
実践を行った都道府県と市区町村	北海道　　標津町
実践を行った具体的な場所 例：〇〇小学校体育館	標津中学校
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	標津町版オリジナルＨＵＧを用いて、中学生とともに取り組むことで互いに防災意識を高める。また、標津高校の取り組みを紹介することで地域循環型防災教育の構築へ向けて、町役場その他機関との連携を築く。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	（１）オリジナル HUG の読み合わせ 　オリジナル HUG を用いてカードの読み合わせ、イベントや避難者情報の共有 （２）事前準備 　避難者情報やイベントでの対応状況を直接記入できるようにするためのシートを準備。また、HUG が初めての生徒も想定されるので、HUG の説明や意義についても共有 （３）出前授業当日 　なぜ標津高校で HUG を取り組んでいるかについて説明 　体育館に移動し、HUG を行う 　標津町住民生活課危機管理室長より講評 	
得られた成果	HUG を通して、万一起きてしまった災害に対して、中学生にも何かできることがあるということを考えるきっかけとなった。また、高校生が読み手となり中学生と交流することでコミュニケーション能力の向上の一助となった。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	標津高校がなぜこのような活動を行っているかについて知ってもらうきっかけとなるため、HUG を初めて行う人、特に中学生に対してなぜ HUG が必要なのかを説明することに苦労した。また、初対面の人とのコミュケーションが難しかった。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	標津町役場　住民生活課　危機管理室
関係者の説明	
関係者の連絡先	

関係者の名前・団体名	しべつ未来塾
関係者の説明	標津のまちづくりと青年同士のネットワーク
関係者の連絡先	https://ja-jp.facebook.com/sfj.mirai/

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	

記入日	西暦 2021 年 1 月 14 日（2020 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	北海道標津高等学校
実践番号	④
タイトル	出前授業（こども園）
実践担当者のお名前	中村　公一　　鈴木　祐二

実践にかかった金額	３万円未満
実践の準備にかかった時間	１ヶ月
実践活動を実施した日時	2020 年 12 月 25 日　　9 時 20 分～10 時 20 分
実践の所要時間	１時間
実践の運営側で動いた人の人数	１４人
防災教育の対象者の属性	幼児/保育園児/幼稚園児
防災教育の対象者の人数	約　６０　人
実践を行った都道府県と市区町村	北海道　標津町
実践を行った具体的な場所 例：〇〇小学校体育館	標津認定こども園「あおぞら」
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	リモートで行うための設備（PC、タブレット、ZOOM 等のアプリ、TV）

達成目標	標津こども園にて園児を対象にした防災教育を標津高校生徒が実施することで、標津高校で行っている取り組みの紹介や生徒の自己有用感と達成感を醸成する。地域防災教育としての”循環型防災教育“、”実習型防災教育“の構築を目指す。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

<table>
<tr><td>実践内容・方法</td><td colspan="2">（１）事前準備
こども園の幼児（５・６歳）にもわかりやすく伝えるためにどのような工夫が必要かを議論。クイズには絵を用いることや、最初にアイスブレイクを行うことを確認。防災に関するダンスは、リモートではなく、直接こどもたちと触れ合いながら行うことが有用であると判断、リモートでは行わないこととした。
（２）教具作成
子どもたちが絵を見てすぐ状況が分かるように、かつ画面を通しても見やすくなるように工夫しながら作成を行った。防災に関するダンス指導には、将来保育士を志望している３年生数名に協力を依頼し、指導を行うこととした。
（３）出前授業当日
リモート班とダンス班に分かれ、高校からリモートでアイスブレイクと防災に関するクイズを行う。
クイズ終了後、ダンス班はこどもたちと一緒に歌いながらダンスを踊った。（時東ぁみ「オッケー！BOUSAI！」）
 </td></tr>
<tr><td>得られた成果</td><td colspan="2">○×クイズでは、普段の避難訓練で確認している「地震があったらベキシリ山へ避難」を再確認すると同時に、率先避難者として行動することの大切さを伝えることができた。また、ダンス指導では、歌詞や振り付けの中に万一に備える内容が触れられており、楽しみながら学習を進めることができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どのくらい身につきましたか？</td><td>知識・技能</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>思考力・判断力・表現力</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>学びに向かう力・人間性</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>課題・苦労・工夫</td><td colspan="2">リモートでの授業と幼児を目の前にしての授業とのバランスについて、今後検討する必要がある。ダンスのようなものの指導はやはり対面式のほうが良いと感じるが、リモートでの指導方法も模索したい。</td></tr>
</table>

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	標津町住民生活課　危機管理室
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	